



## いて座の話

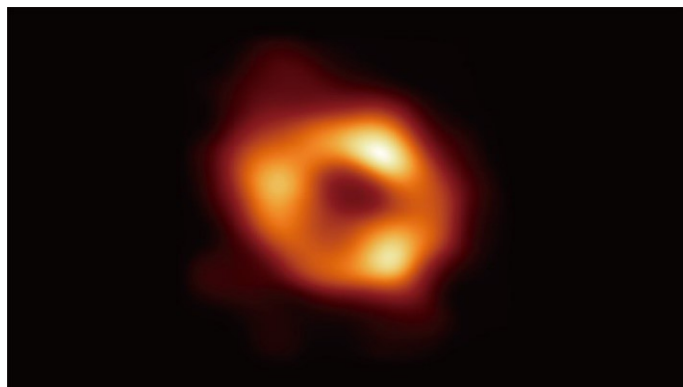
夏の夜、南の空には前の話題「さそり座」に続き「いて座」も見えています。

プラネタリウムでは「いて座は弓矢でさそりの心臓<sup>しんぞう</sup>を狙<sup>ねら</sup>っている上半身が人で下半身は馬の姿<sup>すがた</sup>をしたケンタウルス族の一人“ケイローン”の姿で、ケイローンはたいへんに賢<sup>かしこ</sup>く優秀<sup>ゆうしゅう</sup>な教師<sup>きょうし</sup>で数々の英雄<sup>えいゆう</sup>を育てました。いて座はさそり座と比べると1等星がなく、見つけにくいですが、6つの星を結んでできる小さなひしゃく“南斗六星<sup>なんとうろくせい</sup>”が目印です。」といった説明をしています。



さそり座といて座 (撮影: 疋田 純之)

このいて座には天の川銀河<sup>ぎんが</sup>の中心があり、そこには「いて座A\* (いて座Aスター)」という天体があります。「いて座A\*」というのは強力な電波を出している天体で、この「いて座A\*」の正体は超巨大ブラックホールがあるのではないかとされていました。最近この付近<sup>ふきん</sup>の星の動きを研究したところ、ここにあるのは確かにブラックホールだという事がわかりました。でもこのブラックホール正体が見えなかったのですが、2022年には世界の電波望遠鏡<sup>ぼうえんきょう</sup>を使った観測<sup>かんそく</sup>、EHT (イベントホライズンテレスコープ) 計画でこのブラックホールの写真 (といってもブラックホールの周りのガスの環<sup>まわ</sup>) を初めて撮った写真が公開されました。なんと理屈<sup>りくつ</sup>の上ではわかっていたブラックホールの姿<sup>すがた</sup>を見る事ができたわけです。



EHTで撮ったいて座A\* (Credit: EHT Collaboration)

今では、われわれの天の川銀河の外にあるほかの銀河 (星の大集団<sup>しゅうだん</sup>) の中心にも超巨大ブラックホールがあると考えられています。

2025年8月11日 (解説員: 疋田純之)